

会 議 録

会議名		令和3年度 第4回 大野北地区まちづくり会議				
事務局 (担当課)		中央区役所 大野北まちづくりセンター 電話 042-861-4512				
開催日時		令和3年11月24日(水) 18時30分～20時00分				
開催場所		大野北公民館 大会議室				
出席者	委員	23人 (別紙のとおり)				
	その他	1人 公民館館長代理				
	事務局	5人 大野北まちづくりセンター所長、まちづくりセンター4人				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部公開不可の場合は、その理由						
会議次第		1 あいさつ 2 議 題 (1) 前回のふりかえり (2) 地区課題の抽出グループワーク ～問題点の抽出、集約～ 3 出席委員からの情報提供 4 その他 (1) 次回日程について 5 閉 会				

審 議 経 過

1 あいさつ

山口会長あいさつ

(以後進行は山口会長)

2 議 題

議題に入る前に、所属団体の人事異動に伴い交代された2名の委員の紹介を行った。

(1) 前回のふりかえり

事務局より、下記について資料にそって報告、説明を行った。

○緊急事態宣言が発出されたことから、まちづくり会議の開催スケジュールが変更となったこと。

○前回から4か月の間があるため、資料にそって各班の進捗状況の確認を行い、グループワークの全体像を再確認した。

○あるべき姿を検討する際に参考とするデータから、読み取れる大野北地区の特色を説明した。

○本日のグループワークで検討する「問題の特定」と「問題の所在」について、資料にそって、具体例などを示し説明した。

(2) 地区課題の抽出グループワーク

前回と同じグループで、まちづくりセンター職員が加わりグループワークを行った。

グループワーク終了後に、各班から下記のとおり結果発表を行った。

< A班 >

あるべき姿は、「交通事故が減っている状態」

具体的には、令和2年度に比べて自転車交通事故件数を半減する。

班内の意見として、既存施設の活用が課題と思われる。

具体的には、以前行っていた交通公園での交通ルール教室を再開する。

交通事故の多い時間帯に青パトの巡回を行うなど。

また、交通ルールの講習会を受けたら、商店街で使えるクーポンが貰えるといった取り組みも有効と考える。

< B班 >

テーマは「地域コミュニティ」

あるべき姿は、「世代間交流が活発であること」

具体的には、世代間交流の回数、機会を倍増させる。

世代間交流が活発になることで、地域の担い手となる子供たちが、地域参加があたりまえになるような地域コミュニティになればと考える。

学校や自治会でコミュニケーションを生み出すお祭りや、イベントが減っている。回数、機会を増やしていくには、どうしたらいいかを今後考えて行きたい。

< C班 >

あるべき姿は、「事故件数を3年以内に半減させる。」

次回に問題点や原因を考えて行きたい。

3 出席委員からの情報提供

○萩生田委員から12月5日に、「はやぶさ2帰還1周年イベント」が開催されることについて紹介がされた。

また、一昨年に地域活性化事業として行った「なまはげ」のパフォーマンスを、来年の1月末に実施する予定であると報告された。

○白石委員から11月27日に、麻布大学教育セミナー「人の環境、動物の環境」の市民講座が開講されることについて紹介がされた。

○安藤委員から12月から消防団の歳末特別警戒がはじまることが紹介された。また、消防団活動に参加できる方が身近にいたら、紹介して欲しいとの依頼があった。

4 その他

(1) 次回日程について

今回は、令和3年12月21日(火)午後6時30分から開催予定である旨を事務局から報告した。

5 閉会

山口会長が閉会

以上

令和3年度 大野北地区まちづくり会議委員出席者名簿

	氏名	所属団体等の名称	出欠席
1	山口 信郎	大野北地区自治会連合会	出
		大野北地区社会福祉協議会	
2	飯田 秀雄	大野北地区自治会連合会	出
3	林 知治	大野北地区自治会連合会	出
4	脇山 寿満子	大野北地区民生委員児童委員協議会	出
5	小野澤 行雄	大野北地区社会福祉協議会	出
6	小川 紳夫	大野北公民館	出
7	田加井 政男	交通安全協会	出
8	萩原 ますみ	大野北地区交通安全母の会	出
9	岡 純正	大野北地区老人クラブ連合会	出
10	安藤 貴光	相模原市消防団中央方面隊第三分団	出
11	竹内 重男	さがみはら国際交流ラウンジ運営機構	出
12	小方 明	大野北青少年健全育成協議会	欠
13	高橋 美保	青少年指導委員大野北地区協議会	出
14	村田 明夫	スポーツ推進委員大野北地区協議会	欠
15	霧生 貴紀	小学校	出
16	平野 知彦	中学校	欠
17	児玉 理恵	小・中学校PTA	出
18	三條 久美子	青山学院大学	出
19	河本 真治	桜美林学園	出
20	白石 一郎	麻布大学	出
21	神谷 恵子	福祉グループ「輪」	出
22	伊藤 憲秀	大野北第1高齢者支援センター	出
23	加瀬 剛広	大野北第2高齢者支援センター	出
24	萩生田 康治	にこにこ星ふちのべ商店会	出
25	櫻内 康裕	淵野辺駅南口商栄会	出
26	玉城 洋	相模原市農業協同組合淵野辺支店	出

令和3年度 第4回大野北地区まちづくり会議

日 時 令和3年11月24日(水)
午後6時30分から
場 所 大野北公民館 1階 大会議室

次 第

1 あいさつ

2 議 題

(1) 前回のふりかえり

(2) 地区課題の抽出グループワーク ~問題点の抽出、集約~

3 出席委員からの情報提供

4 その他

次回日程について

日 時 令和3年12月21日(火) 午後6時30分から
場 所 大野北公民館 大会議

以 上

令和3年度 大野北地区まちづくり会議委員及び役員

令和3年11月24日現在

1 委員(大野北地区まちづくり会議会則 第4条別表第1)

	氏名	所属団体等の名称	役職名
1	山口 信郎	大野北地区自治会連合会	会長
		大野北地区社会福祉協議会	会長
2	飯田 秀雄	大野北地区自治会連合会	副会長
3	林 知治	大野北地区自治会連合会	副会長
4	脇山 寿満子	大野北地区民生委員児童委員協議会	会長
5	小野澤 行雄	大野北地区社会福祉協議会	会計
6	小川 紳夫	大野北公民館	館長
7	田加井 政男	交通安全協会	理事
8	荻原 ますみ	大野北地区交通安全母の会	会長
9	岡 純正	大野北地区老人クラブ連合会	会長
10	安藤 貴光	相模原市消防団中央方面隊第三分団	分団長
11	竹内 重男	さがみはら国際交流ラウンジ	副代表
12	小方 明	大野北青少年健全育成協議会	会長
13	高橋 美保	青少年指導委員大野北地区協議会	地区長
14	村田 明夫	スポーツ推進委員大野北地区協議会	委員
15	霧生 貴紀	大野北小学校	校長
16	平野 知彦	大野北中学校	校長
17	児玉 理恵	小・中学校PTA	共和中学校PTA会長
18	三條 久美子	青山学院大学	相模原事務部庶務課長
19	山岸 優之	桜美林学園	事業開発部 地域社会連携室長
20	白石 一郎	麻布大学	地域連携・渉外課長
21	神谷 恵子	ボランティアグループ	福祉グループ「輪」代表
22	伊藤 憲秀	大野北第1地域包括支援センター	センター長
23	加瀬 剛広	大野北第2地域包括支援センター	センター長
24	萩生田 康治	にこにこ星ふちのべ商店会	会長
25	櫻内 康裕	淵野辺駅南口商栄会	役員
26	玉城 洋	相模原市農業協同組合淵野辺支店	支店長

2 役員(同会則 第6条別表第2)

役職	所属団体等の名称	氏名
会長	大野北地区自治会連合会会長 大野北地区社会福祉協議会会長	山口 信郎
副会長	大野北地区民生委員児童委員協議会会長	脇山 寿満子
副会長	大野北公民館館長	小川 紳夫
幹事	大野北地区自治会連合会副会長	飯田 秀雄
幹事	大野北地区自治会連合会副会長	林 知治

令和3年度 大野北地区まちづくり会議グループワーク班名簿

	氏名	所属団体等の名称	班
1	山口 信郎	大野北地区自治会連合会	オブザーバー
		大野北地区社会福祉協議会	
2	飯田 秀雄	大野北地区自治会連合会	B
3	林 知治	大野北地区自治会連合会	C
4	脇山 寿満子	大野北地区民生委員児童委員協議会	オブザーバー
5	小野澤 行雄	大野北地区社会福祉協議会	C
6	小川 紳夫	大野北公民館	オブザーバー
7	田加井 政男	交通安全協会	C
8	荻原 ますみ	大野北地区交通安全母の会	A
9	岡 純正	大野北地区老人クラブ連合会	C
10	安藤 貴光	相模原市消防団中央方面隊第三分団	A
11	竹内 重男	さがみはら国際交流ラウンジ	A
12	小方 明	大野北青少年健全育成協議会	A
13	高橋 美保	青少年指導委員大野北地区協議会	B
14	村田 明夫	スポーツ推進委員大野北地区協議会	B
15	霧生 貴紀	大野北小学校	A
16	平野 知彦	大野北中学校	B
17	児玉 理恵	小・中学校PTA	B
18	三條 久美子	青山学院大学	C
19	山岸 優之	桜美林学園	C
20	白石 一郎	麻布大学	B
21	神谷 恵子	ボランティアグループ	A
22	伊藤 憲秀	大野北第1地域包括支援センター	C
23	加瀬 剛広	大野北第2地域包括支援センター	B
24	萩生田 康治	にこにこ星ふちのべ商店会	A
25	櫻内 康裕	淵野辺駅南口商栄会	A
26	玉城 洋	相模原市農業協同組合淵野辺支店	C

大野北まちづくりセンター職員3名が、各班の進行役として参加。

まちづくり会議のスケジュール変更について

7月27日の第3回まちづくり会議全体会においてスケジュール変更をしたところですが、9月24日に予定していた第4回まちづくり会議を中止としたことから、今年度のスケジュールを次のとおり変更します。

月日	変更前	変更後
7.27	地区課題抽出ワーキング ・あるべき姿の分野特定	地区課題抽出ワーキング ・あるべき姿の分野特定
8.24	予備	予備
9.24	地区課題抽出ワーキング ・問題点の抽出・集約	中止
11.24	地区課題抽出ワーキング ・問題の原因究明 ・課題設定（解決方針）	地区課題抽出ワーキング ・前回のふりかえり ・問題点の抽出・集約
12.21	・まちづくり懇談会での地区課題を選定 ・地区課題解決に向けた手法などの検討	地区課題抽出ワーキング ・問題の原因究明 ・課題設定（解決方針）
R4.1.25	・地区課題の所管部局との調整 ・市民検討会の進捗状況ヒアリング	・まちづくり懇談会での地区課題を選定 ・地区課題解決に向けた手法などの検討
R4.2.22	予備	・地区課題の所管部局との調整 ・市民検討会の進捗状況ヒアリング
R4.3.22	予備	予備

第3回まちづくり会議グループワークのふりかえりシート

7月27日の第3回まちづくり会議全体会では、3グループに分かれて地区課題抽出のためのグループワークを開始しました。当日のタイムスケジュールは以下のとおりでしたが、グループによって進捗に違いがみられたため、当日のワーキング結果を次のとおり整理しました。

また、グループワーク全体像、大野北地区の現状データを同封しましたので、お忙しい中誠に恐縮ですが、ぜひご一読の上、ご出席くださるようお願いいたします。

【7/27のタイムスケジュール】

- 1 自己紹介（各自1分程度）
- 2 前回ポストイットに記述したイメージの補足（各自2分程度）
- 3 あるべき姿の分野の特定（話し合い：5分程度）
- 4 あるべき姿のタイトル考案（各自ポストイットに記述：5分程度）
- 5 タイトル集約（一人ずつ発言し、模造紙に貼りながらグルーピングする）
- 6 あるべき姿の選定（話し合い：5分程度）
- 7 グループごとのあるべき姿の発表

【A班のふりかえり】

- 当日の参加者が2名であったため、急遽、脇山副会長と小川副会長が参加した。
- あるべき姿の分野を「道路・交通」とした。
- あるべき姿のタイトルについては、ポストイットを利用せず、話し合いを行い、交通事故の半減、交通ルール・マナーの徹底、普及などの意見が出された。
- 話し合いの結果、あるべき姿のタイトルを「交通事故が減っている状態」とした。

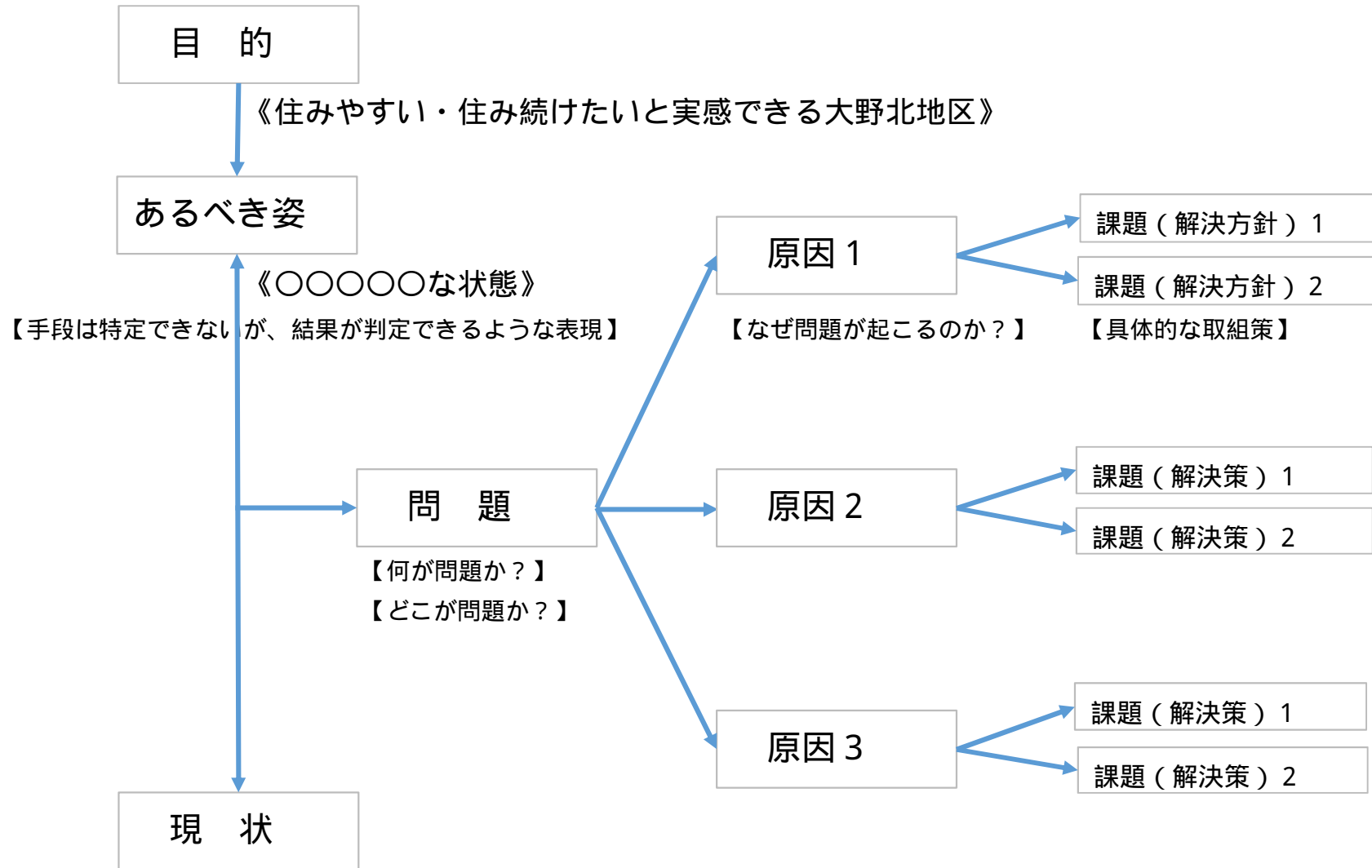
【B班のふりかえり】

- 道路関係を改善するという意見が出た。一方で、道路整備など行政への要望ではなく、なるべく予算をかけないで地域住民ができることを検討した方が良いとの意見もあった。
- 孤立しがちな高齢者を地域コミュニティがどのように支えていくかが重要になることなどの意見が出た。
- 防犯や安全・安心、共助（近所のつながり）を強化する必要があるとの意見があった。
- 話し合いの結果、あるべき姿の分野を「地域コミュニティ」とした。
- あるべき姿のタイトルを考案する時間がなくなったため、次回までの宿題とした。

【C班のふりかえり】

- 自転車通行が危ない、国道16号の十字路付近が危険、横浜線を横断するためのエレベーターが少ないなどの意見が出た。
- あるべき姿の分野を「道路・交通」とした。
- あるべき姿のタイトルを各自ポストイットに記述し、模造紙に貼付した。
- あるべき姿のタイトルの選定は、次回までの宿題とした。

地区課題抽出の全体像



第2回地区課題抽出グループワークについて

【グループワークのタイムスケジュール】

- 1 前回の残り作業があるグループ
 - (1) あるべき姿のタイトル考案(各自ポストイットに記述: 5分程度)
 - (2) タイトル集約(一人ずつ発言し、模造紙に貼りながらグルーピングする)
 - (3) あるべき姿の選定(話し合い: 5分程度)

- 2 各班共通: 問題点の抽出・集約(～19:45まで)
 - (1) 問題の特定(何が問題なのか?)
 - (2) 問題の所在(どこが問題なのか?)

【グループワークでの共通理解 ～モレなく、ダブリなく～】

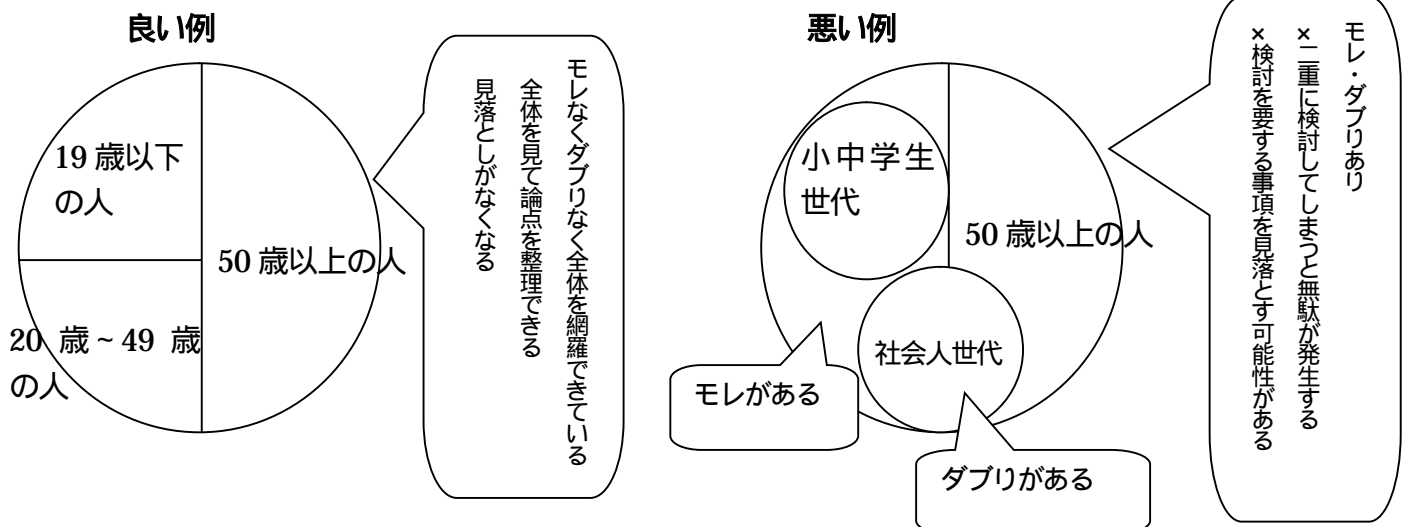
○今後のグループワークでは問題の特定や原因分析、課題抽出について検討しますが、その際に大切なことは直感や感覚的に物事を捉えるのではなく、検討対象の全体像を把握した上で、筋道を立てて矛盾・破綻がないように論理的に考えることです。このような思考法はロジカルシンキング(論理的思考)と呼ばれています。

○ロジカルシンキングの基本の一つがMECEです。

MECEとは、「Mutually Exclusive and Collectively Exhaustive」の頭文字を取って略した言葉です。「ミッシー」又は「ミーシー」と読み、「モレがなく、ダブリもない状態」という意味です。

○検討対象の全体像を把握するためには、モレがなく、ダブリもない状態で整理することが有効だといわれています。また、MECE(ミッシー)に論点を整理することで、筋道立てた検討が進めやすくなり論理的な結論を導くことができます。

モレなく、ダブリもない状態の例(検討対象を年代で捉える場合の例。年代以外を検討する場合も同様に考える必要があります。)



【問題の特定とは（何が問題なのか？）】

○あるべき姿と現状との乖離（ギャップ）のことを「問題」と定義していますが、今回は各グループで設定したあるべき姿と大野北地区の現状を比較しながら、何が問題なのかを検討していただきます。

○ただし、あるべき姿が具体的にない又は現状がわからない場合は、問題の特定が困難になります。このため、まず、あるべき姿が本当に明確になっているかグループ内で再検討を行い、必要に応じてあるべき姿の修正を行ってください。

○作業手順としては、ポストイットで何が問題かを各自が記述し、グルーピングすることとされていますが、あるべき姿と現状が明確になっており問題の特定が容易にできそうな場合は話し合いで決めていただく方法でもかまいません。

【問題の所在とは】

○問題の特定ができれば、次に問題の所在を明らかにします。これは、特定した問題をさらに絞り込む作業です。こうすることで問題を明確に捉えやすくなり、この後の問題解決のプロセスを円滑に進めることができます。

○ただし、ここで注意することは、問題の所在と次回のステップで実施する原因究明とを混同しないように意識することです。

○問題の所在は、「どこが問題なのか」「いつが問題なのか」「だれが問題なのか」という視点で考えて問題を整理することです。一方で、次回の原因究明は、「なぜ？」をキーワードとして、問題が発生する原因を探っていく作業になります。

（例）あるべき姿---区役所の残業時間を月 30 時間以下にする。

現状-----当月の残業時間が月 70 時間だった。

問題の特定 （何が問題？）	問題の所在 （どこが問題？）	原因 （なぜ問題が発生するのか？）
あるべき姿と比較して 40 時間残業が多い	どの課の残業が多いのか？ ○○課 50 時間 課 15 時間 ××課 5 時間	なぜ残業が多いのか？ ・ 休み明けは来客が多い ・ 課は相談事案が多い ・ 残業削減意識が低い ・ 他課への応援が多い
	何曜日の残業が多いのか？ 月曜日 50% 金曜日 30% 火曜日 20%	

○問題の所在の検討についても、ポストイット方式又は話し合い形式のいずれでもかまいません。